

丸根砦(国の史跡)(名古屋市緑区大高町丸根)

丸根砦(まるねとりで)は、名古屋市緑区にあった砦。織田信長によって築かれ、桶狭間の戦いの前哨戦が行われた。

歴史

永禄2年(1559年)、織田信長が今川義元との領土争いの前線として鷺津砦や善照寺砦とともに整備した。場所は、鷺津砦の東南400メートル^[1]、大高城からは東に約800メートルに位置し、鳴海から延びた丘陵の先端に築かれ、東西36メートル、南北28メートルの砦の周囲を、幅3.6メートルの外堀が囲んでいる。永禄3年(1560年)5月19日、桶狭間の戦いの前哨戦が行われ、佐久間盛重を将とする織田軍が立てこもったが、松平元康率いる今川軍に破れ全滅したといわれている。その後、三河で独立した徳川家と織田家が同盟関係になったため存在意義を失い、そのまま放棄された。

現在

大高城や鷺津砦の跡ともに国の史跡に指定されている。

周辺は住宅地となっているが、砦のあった丘の上は史跡として整備され記念碑や殉難烈士の碑が立っている。曲輪や堀が良好に残っている。

Wikipediaによる



丸根砦址



奥の森林が丸根砦址